2025-3-4

外国ルーツの子ども達の教育環境

3年1組 1番　今井綾海
3年1組11番　坂神菜々子

Keyword: 「外国人労働者」「日本語教育」「日本語」「コミュニケーション」「教材」

1. はじめに

外国ルーツを持つ子ども達の教育環境に興味があり、日本語を学びたいと思っている在日外国人・在留外国人と日本語で会話するというボランティア活動をした。この活動を通して主催団体の方に日本国内の外国人労働者の数が増加することに伴い、外国ルーツを持つ子ども達が沢山日本に来ており、様々な問題を抱えている事を知った。また、日常生活で外国人と触れ合うことが増えていると感じる一方、学校においては外国ルーツを持つ生徒と出会う機会があまりないことに気づいたが高校に外国人の生徒に来てもらったり、自ら支援を行うことは現実的ではないと考えた。そこで、何か出来ることがないか考え、以前から留学生同士ばかりで会話していたり、同じ日本人の友達としか会話していなかったのをよく見ていたことから、高校生の私たちに身近な留学生とのコミニュケーションについて探究した。

2. 序論

私たちは留学生とのコミュニケーションを大きな課題とし、それを解決する為に先行研究として「外国ルーツの子ども達の現状把握」について探究を進めた。

「外国ルーツの子ども達の現状把握」

日本国内における外国人労働者の数は年々増加しており、実際に2022年には約182万人の外国人が日本に働きにきている。それに伴い、保護者である親の労働ビザを使い自国から日本に子どもを呼び寄せる事例も増加している。これには日本の生活環境が自国よりも整っているなどの理由があげられる。外国人在留資格ビザセンターによると、労働ビザで呼び寄せることが出来る子どもは、14歳以下または高校に通う事を前提とした15〜17歳の子ども達だ。呼び寄せるための条件として扶養対象ではなくてはならないため、子供の年齢が18歳以上になると、子ども自身が留学ビザを取らなければいけない場合が多い。そのため、14〜17歳の子ども達が日本に増えている。しかし、実際日本の中学校、高等学校に通えている子どもは少ない。その理由として、外国人労働者には子どもを学校に通わせる義務がない事、日本語以外で学べる学校が少なく、授業料の費用が高い事などがあげられる。また、外国ルーツを持つ子ども達が日本の高等学校に通えるように支援している団体によると、外国ルーツを持つ子ども達が日本の高校に行くには中学校卒業認定試験を受けねばならず、日本語が分からない子ども達にとって日本語が大きな障壁になり、さらに日本の教育水準は世界と比較しても高いため、当該試験に合格する事がそもそも難しい。また、高校等学校の入学試験を日本の中学生と共に受けなければならないので日本の高等学校に行くのは極めて難しいのが現状である。

学校に行けたとしても、日本語の授業について行くのは容易ではない。学校の授業についていけなくなったり、日本語の発音に対してのいじりや友人関係の構築の難しさなどにより、不登校になるケースや同じ外国ルーツを持つ子ども達同士での交流に留まってしまっているというのが現状としてある。これらの生徒が不登校になる原因として多いのは、将来の不安よりも対人関係についての問題によるものが多いと考えられる。

外国ルーツを持つ子ども達の教育環境を改善するため、まず私たちの身近で出来ることについて考えた。そこで、私たちは彼らの大きな障壁となっている日本語を外国語として使用するという点で同じような問題を抱えているであろう留学生に焦点を当てた。留学生に日本

語の学習でサポートできれば、それが外国ルーツを持つ子供たちにも転用出来ると考えたからだ。我が校では積極的な留学生の受け入れを行なっているため、留学生の身の回りの学校環境や留学生との交流の仕方を見たり、クラスメイトの意見として「どう接すればいいのかわからない。」というような意見を聞いたりする中で、もっと留学生にとって過ごしやすい環境を作るにはどうすればいいのかを探究をした。

初めに、自分たちの意見と周りの生徒の意見を聞き自分たちの方向性について決めることにした。

3. 本論

初めに、自分たちの意見と周りの生徒の意見を聞き、自分たちの方向性について決めることにした。先行研究で学んだ内容から、外国ルーツの子ども達のコミュニケーション問題を解決する為身近な所から考えることにした。国際高校では留学生や外国ルーツを持つ生徒などが多くいる事から、校内生徒の実際の声を聞き、留学生とのコミュニケーションについてどのように思っているのかを知る為アンケートを行った。

校内で実施したアンケートでは、大きく分けて2つの質問に答えて貰った。1つ目の「留学生とのコミニュケーションを取りたいと思いますか？」に対して、取りたいと積極的に考えている人が約8割いた。その理由として、「異文化をもっと知りたいから。」や「外国の友達が欲しい。」などが多かったが、「話すきっかけがなかった。」、「自分の言語力に自信がない。」など自分から話しかける事には抵抗がある人が一定数いた。2つ目の「話していて、留学生の日本語で違和感を覚えたことはありますか？」では違和感を覚えた事がない人が約6割いた。その理由として、「お互い一生懸命話していたので、違和感があったとしても特に分からなかった」が1番多かった。一方で「敬語や標準語で返されて困った。」などの意見が違和感を感じた人の中では1番多かった。

これらの回答から、校内では話したいが自分の語学力に自信がなく話せなかったり、話す言語の違いによって友達なのに距離感を感じてしまい、話しにくくなる事によって実際の距離が遠くなってしまうことが一部あることがわかった。私たちの実体験としても、留学生の友達に関西弁について質問されたり、興味があるという話を沢山聞いた。ここから私たちは日常的に使う関西弁を実際に使って貰うことで学生と留学生の距離を近くできるのではないかと考え、関西弁のミニ教科書を作る事にした。当初、イベント等で実際に外国ルーツの方と話したり、この問題を知って貰う機会を作ろうと考えた。しかし、イベント等はその時にしか体験出来ず、参加出来ない人は問題について知る事が出来ない。また、参加出来たとしてもすぐ忘れてしまうかもしれないと思い、この問題について長期的かつ身近に考えてもらう為に形に残り、何度でも振り返る事が出来る教科書という方法にした。

ミニ教科書では高校生が日常的に使うフレーズを場面ごとに分け、実際に使っている様子をわかりやすく表すため4コマ漫画を取り入れた。同じような場面で使える他のフレーズをポイントとして記載した。また、日本語には強弱によって意味が異なる言葉や関西弁特有の発音の強弱などがあるためローマ字でふりがなを入れ、強弱は赤丸で、イントネーションは矢印で表すなどビジュアルから理解できる方法にこだわりユニバーサルデザインを参考に作成した。現代ではネット上の方が保存も楽でより多くの人に届けられる為、Instagramという形式にした。

4. 結論

外国ルーツを持つ子ども達の現状を知り、私たちに出来る身近な事がないか考え留学生とのコミュニケーションに視点を置いた。現状把握ではただ調べて知るだけでなく「留学生にとって過ごしやすい環境を作るにはどうしたらいいのか。」という疑問にフォーカスし、実際に校内アンケートを行った。コミュニケーションによって友達なのに心理的距離ができる事が分かり、この問題を長期的かつ身近に考えてもらうため関西弁のミニ教科書を作成した。更に、QRコード付きのポスターを校内に掲示することによって校内で広められるようにし、読んだ後には、教科書を読んでどう思ったのか、改善点などを実際使った人から聞くためにGoogle formのリンクをつけ、これからも改善していけるようにした。

これからの活動として、Instagramでの関西弁の教科書配布の継続ともっと外国ルーツを持つ子ども達の生活と関西弁の教科書について広めて行く為にポスター掲示の場所を増やしたりしようと思う。また、若者言葉やオタクが使う専門用語なども記載し、教科書の内容もより一層深いものにしていきたい。

5. おわりに

今までの活動を通して、私たちは外国ルーツを持つ方の大変さを学ぶことができた。学んだことを活かし私たちに出来る事を考え、私たちにしか出来ない活動をする事が出来た。自分たちのクリエイティビティ、継続力やマネジメント力なども伸ばすことが出来た。

6. 参考文献・出典

nippon.com 日本の外国人労働者：2022年は過去最多の182万人に一 厚生労働省調べ
https://www.nippon.com/ja/japan-data/h01612/, (2023-5-23)

HHJapaNeeds オノマトペ一覧　日本語の音や様子
https://hh-japaneeds.com/ja/japanese-grammer/onomatopoeias/, (2023-5-23)

外国人在留資格ビザセンターhttps://jpvisa365.com, (2023-5-23)